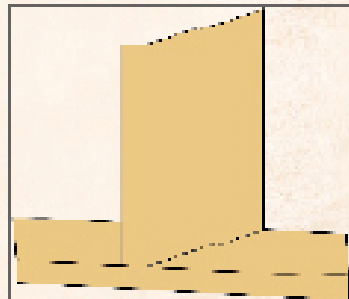


P-システム・セルフクランプ方式『テンソー(Tenso)』組立金具の特徴



セルフクランプ方式

部材に装着された組立金具のアンカーパーツを一組当り15kg程度の力でロックパーツに押し込むだけで、嵌め込みが完了し、部材が組み上がります(世界特許申請中)。



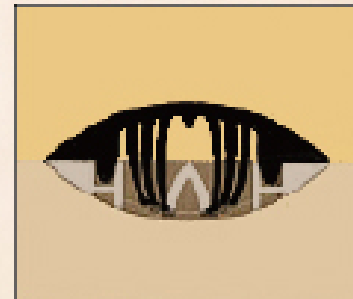
組立金具が隠れます

部材を組立金具で組み立てると組立金具が完全に隠れ、部材の表面には何も残りません。



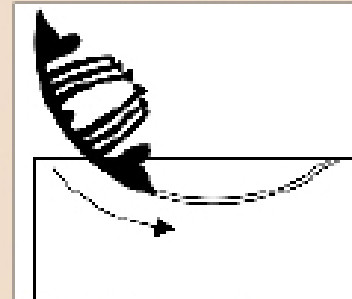
接着剤と併用します

接合強度はそれほど強くありませんので、接着剤と併用する事が前提で開発されています。



接合強度

嵌め込み後の接合面にかかる圧力はクランプなどで15kg程度の力でクランプした時の力に匹敵します。また、一組当り25kg以上の力で引っ張らないと分解する事ができません。



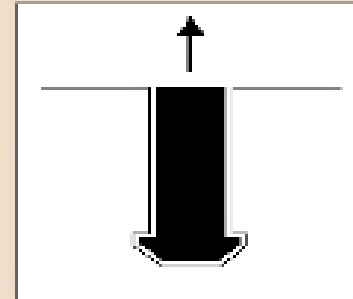
すばやい装着

組立金具の装着も簡単に、すばやくできます。T溝に金具を差し込むだけで、ネジや接着剤で固定する必要はありません。



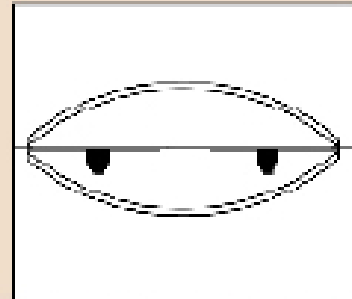
積み重ね可能

組立金具を装着しても、材料表面から飛び出していないので、材料を積み重ねても、別の材料を傷つけません。保管や輸送に便利です。



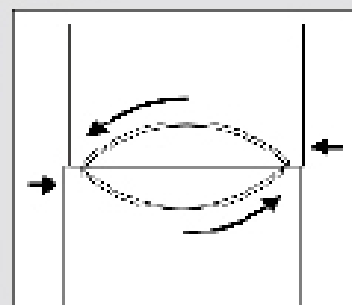
強度が出るT溝嵌合

組立金具はグラスファイバー強化樹脂でできているうえ、上の図のように嵌め込まれているので、安心して使えます。特にファルカタや銅のようにネジが効かない芯材にも威力を発揮します。



ねじれにも強い

組立金具にはねじれと変形を防ぐための突起部2カ所設けてあります。



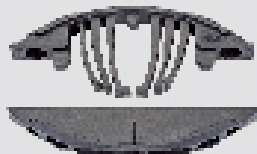
組立金具には多少の遊びがあります。

接着剤が硬化する前に、木口などをきっちりと合わせることが出来ます。アンカーパーツとロックパーツが長手方向に1mmズレていても、嵌め込みが可能です。

テンソー使用上のご注意

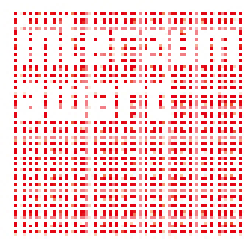
- (1) テンソーは直角・平面接合に適しています。留め接合はテンソーの押し込み方が難しくなります。
- (2) セルフクランプ力がそれほど高くなくても良い場合にはビスケットと併用することにより、コストの上昇を抑えられます。
- (3) 摂氏10度から40度の温度で保管してください。摂氏10度以下で保管しますと割れる可能性があります。
- (4) 15～20cm間隔で使用されることをお勧めします。
- (5) アンカーパーツとロックパーツ同士の両サイドの接触面が離れていますと性能が発揮できません。加工するT溝の深さにご注意ください。
- (6) T溝を加工するカッターが摩耗しますと、テンソーの装着と性能に影響が出ますので、常に刃先が鋭いものをご使用下さい。

クラメックスとテンソーを使い分けるうえでのポイント

	クラメックス (レバークランプ方式)	テンソー (セルフクランプ方式)
		
基本的な違い	— 様々な角度での接合に適しています — 部材の取り外しが可能 [接着剤を併用されると取り外し不可能] — 高い接合強度	— 直角・平面接合に適しています (留め接合などでは組立に工夫が必要です) — 主に接着剤と併用 (接着剤を併用されない場合には取り外せますが、取り外しにある程度の力が必要です) — 組立金具が完全に隠れ、表面に何も残りません
接合強度	— 60～100kg/組 [クラメックスの種類や部材の材質により変わります]	— 15kg/組
装着部の加工 組み立て 取り外し	— T溝加工後、6mmの穴をあけます — レバーを六角棒スパンで回します — レバーを六角棒スパンで回します	— T溝加工のみ — 15kg/組程度の力で押し込みます — 25kg/組程度の力で引っ張ります
その他	接着剤の硬化中に行なうクランプ留めが必要ありません 接着剤の硬化中でも、次の作業に取りかかれます	



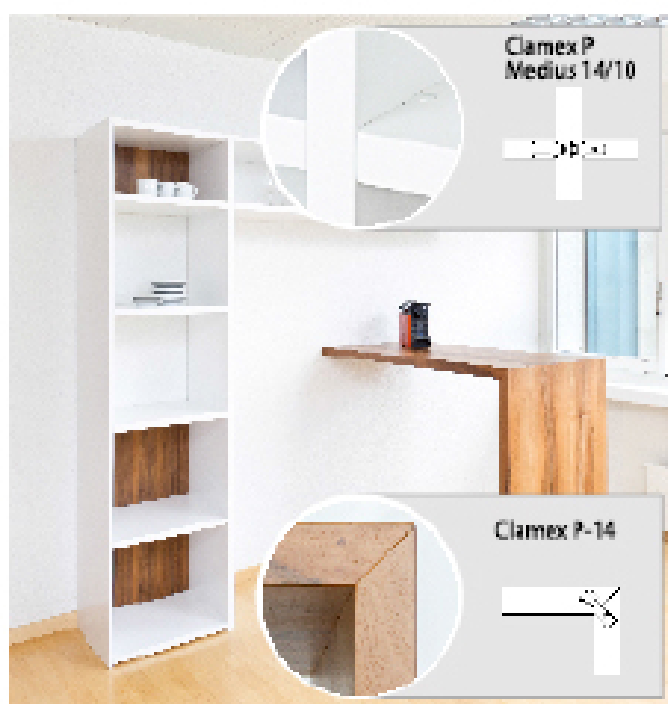
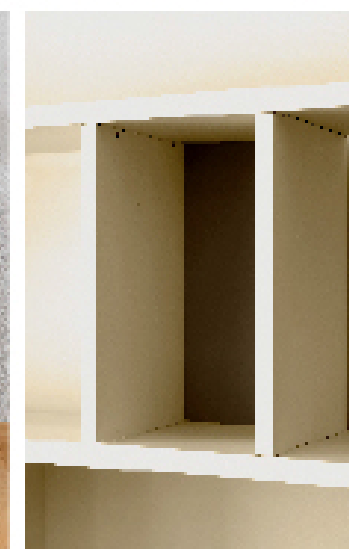
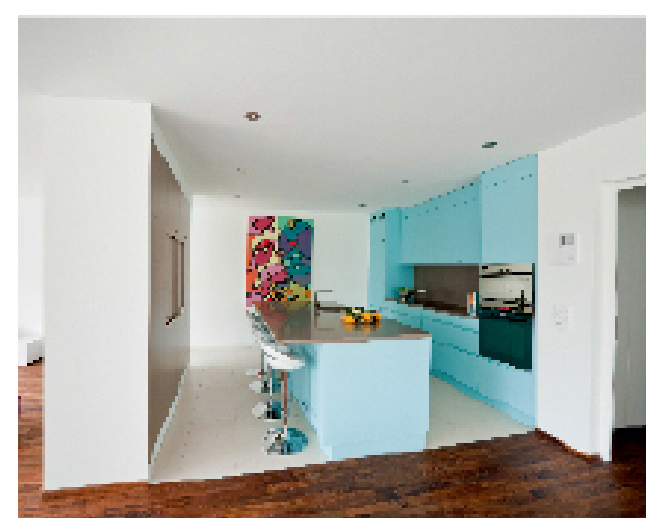
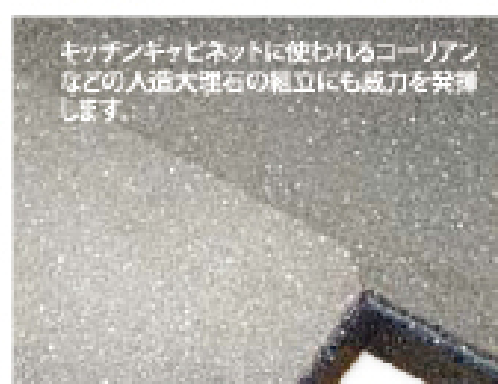
ドイツ・デザイン
アワード2014
受賞



best of the best

ドイツ・インターzum2013
「ベスト・オブ・ベスト」受賞

interzum award:
intelligent
material & design
2013



出荷単位	品番
80組入り.....	145304
300組入り.....	145305